

## 宝飾市場を揺さぶる景気低迷

ジュエリー&ウォッチ

### 重いパドル、需要と供給にずれ

今季のジュエリー&ウォッチセールでは、春以降低迷が続いている経済状況や激化する米中貿易摩擦などの政治的・経済的な煽りを受け、東京・香港ともに購買力が上がらず、期待通りではない結果となった。近年、コレクターは宝石の選別や購入のタイミングにますます慎重になっている一方で、元値を維持する傾向が強い出品者との間でバランスが取りにくい状況となっており、これらの不均衡さが、オークションの結果に如実にあらわれている。

東京セールでは、高品質かつ高価な宝石よりも装飾的で趣のあるジュエリーやヴィンテージウォッチなどに注目が集まった。香港セールでは、269.51 ct もの大きさを誇るコロンビア産エメラルドルースを始め、カラーダイヤモンド、翡翠、珊瑚、色石、アンティークジュエリーを含む計 200 点ものラインナップが登場。

### 愛好家の眼にかなう優品とは



香港セールでは、貴重な 2.17 ct 非加熱のタイ産ビビッド レッドルビーと 2.04 ct ダイヤモンドリングセットが 26 万 6,200 香港ドル(約 386 万円)で落札され、3.02 ct ビルマ産ピジョンブラッド ルビーリングは 12 万 1,000 香港ドル(約 175 万円)で落札されるなど、愛好家は優品の選別に確かな眼をもっている。

珊瑚は依然として中華圏コレクターの間で高い人気を誇る。とりわけ深みのある赤珊瑚は最も人気があり、6 点のうち 4 点が落札され、直径 26.3mm の珊瑚ダイヤモンドリングは 24 万 2,000 香港ドル(約 351 万円)で中国の愛好家の手に渡った。市場が回復をすることを期待しながら、お客様のニーズ

に合わせたセールの組み立てを目指し、国内外問わず、幅広く宣伝することを課題として取り組んでいきたい。



## 東洋美術

### 新たな客層、来季に期待



董其昌「行書手卷“輪台行”」画心: 54.7 × 398.5 cm

### 経済低迷の影響うかがえる結果

秋の香港セールでは、エスト・ウェスト香港進出 10 周年記念の特別企画として、日本人の家族が百年近く所有していた中国絵画作品が出品。長さ 4 メートル近くある董其昌の書「輪台行」は来場した愛好家たちから多くの称賛を受け、オークションでは 145 万 2 千香港ドル(約 2,095 万円)で落札。しかし、中国経済が急成長から落ち着き、米中貿易摩擦などが美術品市場に影響を与え、董其昌の書も本来であればもっと高値での落札がなされるべき作品であるが、従来の顧客である中華系愛好家が現在、買い控えている状況であった。

ただ、いくつかの経済都市を国内に持つ中国経済は日本とは異なり、停滞も回復も急速である。現在は深圳、広州などを中心とした IT 系の業界における新たな富裕層が勢いを持っている。彼らの蒐集の対象として、今後、中国書画・骨董が求められることが予想される。

### 東京セール日本工芸が人気 象牙作品が 9 倍の伸び

10 月に開催された東京セールでは東洋美術部門から 100 点近くの作品が出品された。象牙彫刻作品は今回も人気を博し、全作品が落札予想価格を超えて落札。中でも焼き栗の彫刻が落札予想価格下値の 9 倍を超える 92 万円で落札。

その他、室町時代の名刀匠和泉守兼定も登場し、落札予想価格の上値を超えた。高い技術を誇る日本の初音時絵料紙箱、李朝からは漆螺鈿箱、白磁壺などの作品が順当に落札されて行った。近代陶芸作品は 6 ロットの中 5 ロットが落札。日本美術全体から見ると、ジャンルを問わず、技術力が高く希少性がある作品に人気が集まる傾向を示した。日本伝統美術の素晴らしさを世界のコレクターへ広げていくのが今後の課題である。



象牙 焼き栗 h3.8 × w4.6 cm 49 g